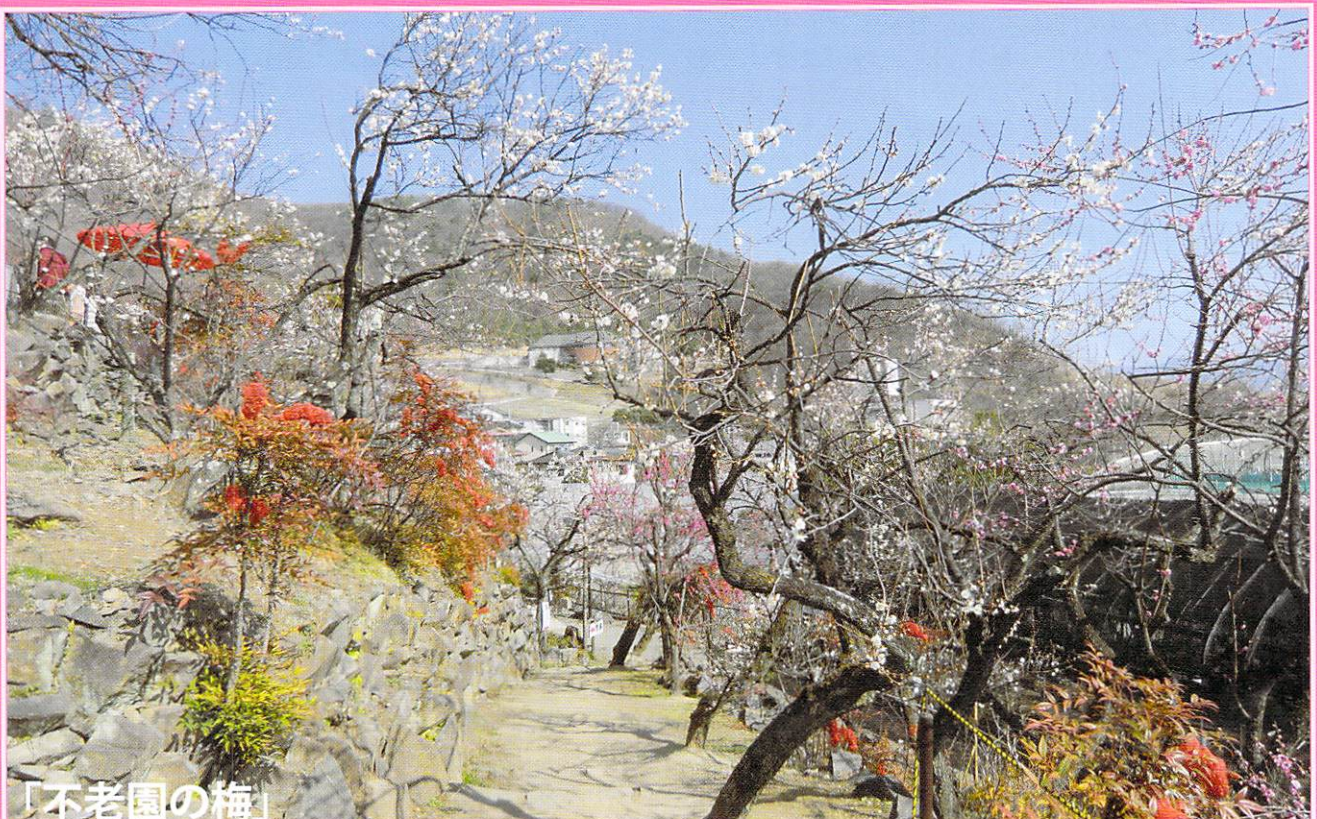




目次

ア・ラ・カルト「外科治療の広がり、この一年」	1
職場紹介「医療機器管理室」	2
お国自慢	3
退職者ご挨拶	4
看護部だより「一年を振り返って」	5・6
お知らせ「治療実績ランキング上位進出」	6
患者数	6
外来医師担当表・特殊外来ご案内・就職説明会	7

発行：独立行政法人 甲府病院 広報委員会
国立病院機構
発行責任者：長沼博文
住所：〒400-8533 山梨県甲府市天神町 11-35
電話：055-253-6131
ファックス：055-251-5597
ホームページ：<http://www.kofu-hospital.jp/>
Eメール：kofu@kofu.hosp.go.jp
携帯サイト用QRコード



「不老園の梅」

JR 酒折駅から徒歩七分、連歌の発祥地として知られる「酒折宮」のほど近くに、山梨を代表する梅の名所「不老園」があります。

この不老園は明治30年、呉服商の七代目奥村正右衛門が別荘として開園したのがはじまりで、以来、北海道を除く全国から持ち帰られた様々な梅が植えられ、現在では2月の早咲きから3月終わりの遅咲きまで、2ヶ月余りに渡って春の彩りを楽しむことが出来ます。(写真・文 管理課庶務係 山田 昌弘)



独立行政法人国立病院機構
甲府病院の理念

理念

私たちは、良質な医療の提供を通して、患者さんの健康を支え、地域社会に貢献します

基本方針

- 丁寧な説明に努めます
- 自己研鑽に励みます
- 職員同士協力し合います

私たち職員は、理念を実現するため最善を尽くします

病院は、職員の働きやすい環境を積極的に提供します

アラカルト

「外科治療の広がり、この一年」

外科医師 浅川 真巳

腹腔鏡手術

腹腔鏡手術は5 mm～1 cmの穴を腹部にあけてカメラで内部を見ながら長い鉗子を使用する手術です。大きな創を残さず内臓に与える影響も少ないため回復が早いことが特徴です。元来胆嚢の摘出に用いられており穴は4か所でしたが、最近はお臍に2 cmの穴1か所で可能になりつつあります。術後創がお臍の窪みに隠れてしまうぐらいで、患者さんの負担は格段に軽減しました。穴が一つであることから「単孔式」と呼びます。一般的にはまだ2個以上の穴で行われることも稀ではありませんが、当院では昨年末から基本的にこの単孔式胆嚢摘出術を行っています。さらに最近では早期胃癌に対する局所切除に対してもこの単孔式を応用しました。大腸癌に対しても腹腔鏡を用いています。最終的に癌を摘出する創だけ4 cmになります。術後疼痛はかなり軽度で腸の機能回復も早い。患者さんは大変楽に経過されています。癒着による腸閉塞が起こりにくいことも利点です。肉体的負担が少なく高齢者にも実施可能で比較的若い患者さんは早期社会復帰に有利です。この1年外科ではチームを組んで国立病院機構主催の技術研修に2回、八王子トレーニング施設へ2回、また1名は国立病院機構内で他病院へ研修に出るなど技術向上に努めてきました。今後も患者さんの負担を軽減できる治療を目指していきます。

転移性肝癌

大腸、直腸癌において肝臓はもっとも転移しやすい臓器です。新規抗癌剤で治療成績が向上しましたが抗癌剤には限界があります。また手術（肝切除）は大変有効で長期生存には不可欠ですが抗癌剤との併用治療がさらに効果を上げます。当院では同時性転移も再発転移も可能であれば肝臓への転移は切除しています。腸の癌と同時に切除できれば手術は一回で済みますし再発予防のため術後抗癌剤を加えます。また手術不能な進行例も抗癌剤で縮小すれば手術可能です。繰り返し肝臓に

再発する性質もあり複数回の手術もあり得ます。大変ではありますが、近隣医療機関で切除困難と診断されたため当院で5回目の手術を行なった結果、今は癌のない状態に回復された例もありました。5回目の肝臓手術というのは国内でも希少な例ですが、こうして切除できた患者さんは長期予後が期待できるため我々も患者さんの希望に応えたいと感じています。

当院外科からの連携拡大・難しい症例への対応

近年日本では生体肝移植が普及し保健診療の適応となりました。また臓器移植法の改正で脳死移植も始まっていますが、いまのところ県内には肝移植認定施設がありません。当科にアメリカ移植外科専門医（留学中資格取得）がおり、適応や手術に精通しています。移植に関する相談や適応の診断などを行なっています。この1年では2例の肝移植適応がありました。1例は肝不全の患者さんで移植コーディネーターとの面談を当院で行った後隣県移植施設に向けてヘリコプターで搬送しました。もう1例は肝硬変に対して脳死移植登録を依頼し待機状態にいただきました。必要な検査は当院でも行ないますが紹介先が留学時の人脈であることから連携は良好です。

また「肝門部胆管癌」という診断や手術が難しい稀な癌があります。そのうち1例は癌の範囲が重要な血管まで広がっていました。肝臓の3/4を切除すると同時に2本の血管を繋ぎ直す（特に肝臓への細い動脈の吻合）には特殊な技術が必要でした。当科に国立がんセンターレジデント修了者がおり現在も手術研修を継続しているのでがんセンターへ手術を依頼し無事手術を行なって頂きました。また転移性肝癌で下大静脈という大きな血管を癌がとり囲む1例に対し（この位置は難しく大掛かりになるため手術ができないとする施設が多い）、がんセンター肝胆膵外科の先生に当院へ応援に来て頂いて手術を行ないました。このようにフレキシブルな病院連携、医師交流で地域に役立ちたいと考えています。



写真1)
ヘリコプターで搬送しヘリポート着陸。
白衣が牧医長。



写真2)
左:江崎稔先生
(国立がん研究センター肝胆膵外科)

中央:鈴木医長
右:浅川

職 場 紹 介

「医療機器管理室」

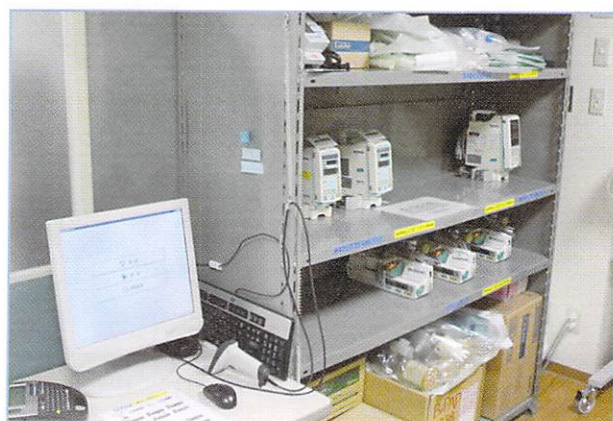
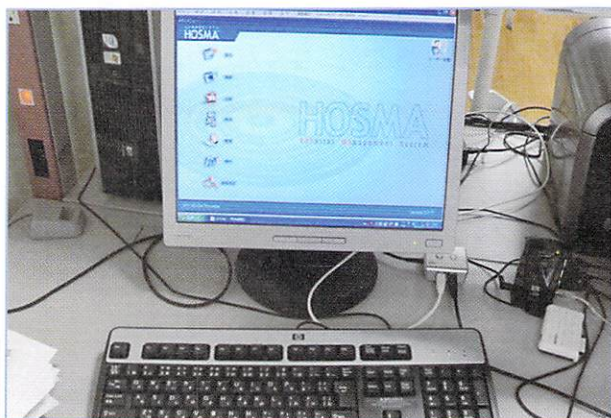
臨床工学技士 岩間 信夫

ME 機器管理センターは、病院の地下1階にあり院内にある医用機器を中央にて管理している部署です。(他施設同様機器管理センター自体が、病棟より離れた場所にあるためあまり目立たないです) 現在、臨床工学技師 (CE 技士) 1 人にて中央で管理 (病棟管理も含む) している医療機器は、心電図の送信機などの小型医療機器から人工呼吸器のような生命維持装置まで幅広く管理、及び、操作や点検などを行っています。それらの医療機器においては、個体ごとに当院独自の管理用登録 ID のバーコードを貼り、各機器の ID にて使用状況や貸し出しの状態などを把握して、状態に応じて点検や修理など一連の動作管理が一括で行える場所です。(現在 PL 法などがあり修理する場合にも各メーカーのメンテナンス技術講習を受け修了書の発行にて、所有医療機器の 70 ~ 85 % 位は

院内での保守点検などのメンテナンス可能。)

中央にて機器管理するということは、全医療機器の状態把握が一箇所で確認でき、各病棟に連絡して使用可能 (未使用) な機器を探すことなく、何時でも点検整備済みの使用可能機器が保管しており、機器管理システム PC 上にて簡単な操作のみで持ち出し可能となっています。また、機器管理用システム PC においては、機器状態把握 (病棟管理機器も含む) でき、機器メンテナンス中、修理状況、稼働率など確認可能な部署です。

CE 技士は、チーム医療の一スタッフとして生命維持装置の操作や、保守点検などを行い他部門のスタッフとも協力し合い安全で使用できる環境を整えていきたいと思っておりますので、今後とも、よろしくお願ひします。



ME センター内の点検
中の機器および集中管
理システム

お國自慢

事務部 企画課 契約係 みやま あつし 深山 敦之

契約係の深山 敦之です。昨年11月に千葉県から山梨県にやってきました。私の出身地の千葉について主に3点に分けてご紹介したいと思います。



①温暖な気候と豊かな大地に恵まれた千葉県は、全国有数の農業県であり、平成20年農業産出額は4,216億円と全国第3位(千葉県HPより)となっています。

とりわけ、千葉県では、落花生や甘藷が多く産出されています。落花生の中でも私の地元でとれる「千葉半立(はんだち)種」は落花生の最高品種であり、とてもおいしいと思います。



また、歴史的には、山武郡九十九里町と千葉市幕張町で、青木昆陽が甘藷を試作して、その普及にも努め、大凶作から庶民を救いました。



②千葉には、「千葉ロッテマリーンズ」や「ジェフ千葉」などのチームのホームタウンがあります。千葉ロッテは、2010年のシーズンでは、史上初めてリーグ3位から日本一になり、「下剋上」と呼ばれました。



千葉マリンスタージアムがある幕張新都心では、優勝パレードが行われ、沿道は約20万人の観衆でにぎわいました。

幕張ベイタウンでは、住民の手作りによる紙吹雪が舞うなど、感動と喜びを分かち合う様子を全国に発信しました。



③千葉には、成田国際空港があります。展望デッキには、望遠鏡が設置されていて、迫力あるジャンボジェット機の離着陸のシーンを間近に感じながら見学することができます。また、飛行機を見ながら食事のできるレストランもあります。

ちなみに、私は成田山へ初詣の参拝した帰りに成田空港へ遊びに行ったりします。

その他にも千葉には、海や山、森などの自然をいかしたレジャー施設などがたくさんあるので、千葉に遊びに来た時には、是非楽しんでみてください。



お國自慢 番外編

前回のお國自慢コーナーで当院医事係 古川 翔太 による岩手県の紹介を掲載しましたが、その記事について多方面から思わぬ反響を頂き、特に国立病院機構東長野病院の 小林 信や 院長先生より貴重な情報提供を頂きました。

鎌倉時代から江戸時代にかけて奥州(岩手県から青森県一帯)を治め「南部鉄器」や「南部せんべい」にその名を残す『南部氏』の起源は、山梨県にあるというのです。

名門清和源氏のひとつで、甲斐の国(山梨県)に勢力を築いた甲斐源氏の一族の加賀美遠光が、南部氏の家祖である息子 光行 に甲斐南部の所領を与えたそうです。光行は現在の山梨県南巨摩郡南部町に居を構え、南部三郎光行と称したことが、南部氏の始まりといわれているそうです。

この南部氏が甲斐から奥州に移り住んだ理由については諸説あり、『南部氏の祖先が将軍源頼朝の命で奥州藤原氏征伐に遠征した際に手柄を立て、褒美として奥州を領土として拝領した』とも、『鎌倉幕府内の権力闘争とその後の動乱を避けるため奥州に移住した』ともいわれているそうです。

遙かな昔、山梨県と岩手県に濃密な接点があったことを知り驚き、感動しました。

小林院長先生、素晴らしい歴史秘話を教えて頂きありがとうございました。



南部氏家紋



山梨県の鳥:ウグイス



岩手県の鳥:キジ

※この度の東北地方太平洋沖地震において被災された、岩手県をはじめとする多くの方々へお見舞い申し上げますとともに、早期の復興を心より願っております。(編集部一同)

退職者ご挨拶

春になり、今年も長年にわたり当院に尽くしてきた職員が退職の日を迎えました。今回はその退職者のうち四人の方に、退職に当たっての思いを綴っていただきました。



定年を迎えて

(前) 栄養管理室長

白井 敏昭

昭和51年国立療養所西新潟病院(現・NHO西新潟中央病院)を振り出しに、この度、無事(?)35年間の勤務(延9施設、単身生活延17年)を終え、現役引退の日を迎える事となりました。35年の間、栄養管理業務も様々な変遷を遂げてきました。長い間言われ続けてきた病院給食の三悪『早い・冷たい・まずい』は温冷配膳車等の導入による適時適温給食の実施で随分改善されました。その他、腸管出血性大腸菌O-157による集団食中毒を機に衛生管理の徹底、経営改善の取り組み、チーム医療の推進等々があります。最後の勤務施設が甲府病院となった事で、新潟生まれ、新潟育ちの私にとって縁遠かった山梨(甲府市)が、今では極身近な地に変わった事は言うまでもありません。甲府から自宅まで、中央道・長野道・上信越道・北陸道の高速を乗り継ぐ事380km程ですが、何れ一度は観光で訪れたいと思っています。3年間大変お世話になり有り難うございました。



ありがとう、感謝

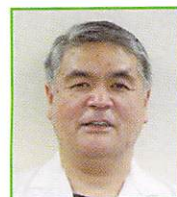
(前) 企画課長

倉本 守

この度、42年間(昭和44年4月～平成23年3月)の勤務にピリオドを打つこととなりました。最後の2年間を甲府病院勤務となり皆様方には、ご支援及びご協力を頂きありがとうございました。

理解ある上司及び良き後輩に恵まれ勤務することが出来ました事に感謝申し上げます。事務の仕事は「働きやすい職場環境づくり」「安定した病院経営」「患者サービス」に取り組んでいくことが重要です。個々の能力を十分に生かして経営改善に努めていただきたい。

また、私事ですが仕事が一段落したときには「ノミニケーション」で鋭気を養い過ぎる面が多々あり、皆様には大変ご迷惑をおかけしました。事務の分野に限らず人員削減で厳しい組織となっておりますが、各分野と連携を密に病院発展のため努めて頂きたい。皆様のご活躍を期待しています。



退職に寄せて

(前) 調理師長

西田 政男

昭和60年11月に採用。当時の(国立甲府病院の)給食棟はプレハブの建物で、冷暖房はなく、冬は寒く隙間風が入ってくるような状態、夏は高温多湿で非常に暑く、大きな換気扇で熱気を外に出すだけでした。配膳車も布のシャッターが降りるだけなので、冬場温かいものはすぐに冷め、夏は冷たい物など、食べるころには常温になってしまうような状態だったので患者サービスに取り組み、保温食器、直前調理、又、冷たい物は冷蔵庫へ入れたり工夫してきました。又、国立病院総合医学会、調理師研修会などでの病棟訪問についての事例発表など、旧棟では多くの人たちの協力のおかげでいろいろな経験をすることができました。現在の新棟は旧棟から見ると180度とっていいぐらいの変化です。調理室は冷暖房完備、最新の調理機器と温冷配膳車、食事に対しての患者満足度も高く、選択メニュー・お祝い膳・糖尿病の食事会など、調理師・栄養士が共同で取り組み、最高の患者サービスが出来ていると思います。

旧棟から新棟へ、西甲府病院との合併、重心食の形態調整など、初めてのことが多く、戸惑うことばかりでしたが、この経験をこれからも生かしていきたいと思えます。



只々、感謝です

(前) 外来師長

指宿 えり子

花便りが相次ぐ候、私は看護師として信州から京都、そしてまた信州、最後は甲府で定年を迎えさせて頂きました。老父母の介護のため、機構病院のネットワークでブロックを越え異動させて頂きました。今年の看護職員募集のなかに“あなたのキャリアは立ち止りません”というキャッチフレーズ通り組織としてサポートして頂いたことは感謝に堪えません。こちらで父母を看取ることができ、また職務を全うできたことは、周りのスタッフや多くの仲間の支えであることを今更ながら実感しています。2年間の重症心身障害病棟では、いのちに寄り添う看護師の感動場面をたくさんみました。同じ看護師として畏敬の念を強くもち、看護への自分の思いが高揚しました。外来では、助産師外来・フットケア外来開設へスタッフ共々尽力しました。診療報酬の中で純粋に看護の力で患者から報酬を頂くことに当然じゃん!という自負ときちんと患者に還元する責任に押しつぶされそうになりながら、みんなで踏ん張っています。最後に京都で待ちくたびれ忘れられた夫に只々感謝です。

看護部だより

22年度は「てんじん」で新人の時々のお話を紹介してきました。今回は先輩の助産師、看護師となる2年目に向けての思いや抱負を語っていただきました



現在の自分とこれから

2病棟 助産師 杉本 千弘
平成22年4月に就職した助産師1年生です。産科病棟で日々仕事をし、先輩助産師から指導をしていただきながら、責任のある助産師の仕事について学んでいます。

特に、周産期における女性や家族にとって、家族それぞれの役割が変化する大切な時期に、一人ひとりの妊婦さんや褥婦さんの悩みや不安に、的確なサポートができていくか、自身の行動を振り返る毎日です。

日々学んでいることを少しずつでも自分の経験として携えていき、これからの援助や指導に活かしていきたいと思っています。



1年を振り返って

2病棟 助産師 森田 園子
周産期医療センターに配属となり、1年が経とうとしています。就職して今日まであっという間でしたが、助産師として、分娩介助やその他のケアなど、先輩に指導をして頂きながら日々学んでいます。

この1年で多くの患者さんとの出会いがありました。自分が関わった患者さんが、成長した子どもと共に尋ねてくれたり、また自分にかけていただける患者さんの一言がとても嬉しく思います。毎日の関わりの中で学ぶことが多くあります。産科は入院期間も短く、その中で関わっている時間を大切に、自分の助産技術も高めて行けるよう頑張っていきたいと思っています。



一年の振り返りと今後の抱負

2病棟 看護師 吹野 春菜
私がGCUに配属されてから約1年が経ちました。最初は入院している児に触るだけでも緊張しました。また、オムツ交換や哺乳など基本的なことを行う時も児に愛情をもって接することより、自分のことで精一杯で、児が泣いていてもその理由も分かりませんでした。そして両親への配慮なども十分にできずに戸惑っていました。そのような中で、先輩方の両親や児への接し方を日々みて学ぶことと、直接指導をして頂くことで、知識を増やし状態を観察しながら少しずつ対処ができるようになってきたと思います。

今後も経験を積み自己学習を怠らず、児や両親が安心できる看護ができるよう成長していきたいと思っています。



一年を振り返って

3病棟 看護師 吉永 友子
看護師として働き始めてからあっという間に1年が経ちます。最初は学生と看護師の違いに何もかも戸惑う事が多くあり、看護技術も未熟で

毎日過ごすことに必死でした。しかし、プリセプターや他の先輩と一緒に考えてくれ、アドバイスをさせていただくことで、たくさんの看護技術を身につけることができ、自信もついてきました。最近では、プライマリー看護師として患者さんを受け持つようになり、入院から退院まで深く関わっていく中で、患者さんから、「安心して入院生活を送ることができました、ありがとう」などの言葉をいただき、日々励まされ嬉しさを感じています。今後も患者さんに寄り添う看護ができるよう日々、努力していきたいと思っています。



1年間がんばりました

4病棟 看護師 鈴木 静
早いもので、看護師として働き始めてもうすぐ1年が経とうとしています。

就職して間もない頃は、看護師としての仕事の多さ、責任の重さなどに戸惑う部分もありましたが、周りの先輩に1つ1つ教えていただき、なんとかここまですることができました。これまでの約1年、辛い時期もありましたが、患者さんや病棟のスタッフがかけてくださる嬉しい言葉が、私のやる気の原動力となりここまで続けていくことができたのだと思います。周りのいろいろな方に感謝しています。

病棟には、目標とする先輩看護師がたくさんいます。そんな先輩看護師に少しでも近づけるように頑張っていきたいです。

まだまだ未熟で、分からないことだらけではありますが、常に「笑顔」を忘れずに頑張りたいと思っています。



2年目も頑張ります！ 1年間を振りかえって

4病棟 看護師 小野寺 涼
看護師として働いて約1年経過しますが、毎日様々な疾患・発達段階の患者さんを受け持たせていただき、

とても充実した1年間となりました。

とても忙しい病棟ですが、そのなかで日々働いている先輩はとても尊敬でき頼りになる存在です。病棟全体で新人を気にかけてくださり、日々様々なことを教えてくれ経験させていただくだけでも勉強になりました。時には仕事の多さ・忙しさに挫けそうになった事も何度もありましたが、先輩や同期そして患者さんが励ましてくれたためここまで頑張ってくることが出来ました。患者さんが言うくださる感謝の言葉は、今の私にとって仕事のやりがいにつながっています。今後は先輩方のように患者さんに信頼され、思いに寄り添った看護が出来るよう日々努力していきたいと思っています。



一年間を振り返って

6病棟 看護師 四條 淳子
重症心身障害病棟に配属になり1年が経とうとしています。

実際に1年勤務して自分の看護を振り返ると、半年程は自分に余裕がもてず看護することで精一杯でしたが、患者さんの癖や習慣・身体の特徴などを知ることができ1人1人の看護計画に沿った援助を安全に確実に行うことが出来るようになりました。また重症心身障害病棟の患者さんは、自分から体調不良や感情などを伝えることができない方が多く観察がとても大切であり、関わっていくなかで少しの変化でも気づくことができ、対応していかなくてはならないことも学びました。今後も観察力を究めてアセスメントし、なにが必要なのか判断し援助につなげていきたいと思っています。しかし知識不足なため判断がなかなか出来ないこともあるので知識も深めていきたいと思っています。まだ不安が残る看護技術などは自分から積極的に行い学んでいきたいと思っています。



桜のつぼみと共に

7病棟 看護師 小澤 美穂
病室から見える桜の木の芽も日々膨らみを増しています。その桜の芽を覗くたびに「もう少しで看護師になって一年が経つんだ」と思います。

この一年、プリセプターをはじめとした先輩看護師の方々に見守られ多くのことを学びました。重症心身障

害病棟に配属になって、最初は全くの未経験分野で戸惑う事もありましたが、現在はこの一年の経験を通して重症心身障害者看護の楽しさや奥深さを知り、やりがいを感じるようになりました。

昨年は仕事を覚えることで精一杯でしたが、これからは自己学習に力を入れて、重症心身障害者看護の理解を更に深めていきたいと思っています。また、患者さんや家族の方とも積極的にコミュニケーションを図り、患者さんと家族の思いを、学習で得た知識や経験と合わせ、患者さんの声にならない声を聴けるような看護を目標として頑張っていきたいと思っています。



1年間を振り返って

8病棟 看護師 古家 久美
重症心身障害病棟で働き始めて1年が経とうとしています。職場の雰囲気にも慣れ、病棟の中で様々な看護技術を経験する事ができました。

振り返ってみるとこの1年間は日々の業務に慣れること、患者さん一人一人の状態を把握することで精一杯だったように感じます。重症心身障害病棟の患者さんは、病棟内が生活の場でもあります。日々の生活の変化が持てるように他職種との連携が欠かせません。私も一看護師として患者さんと向き合っていきたいと思っています。

私達1年生がここまで頑張れたのはプリセプターの方を始め、先輩方の指導があり、支えがあったからだ感謝しています。これから2年目となりますが、覚えていくことも多くあります。今後も仲間と共に学び、触発しあいながら日々成長していきたいと思っています。

お知らせ

当院が治療実績スポーツ障害部門全国11位にランクインしました

当国立病院機構甲府病院は、全国病院別治療実績（DPC対象病院*）において、2009年7月～12月退院患者の統計におけるスポーツ障害部門で、全国11位（10件以上の治療実績を持つ病院約500箇所のうち）となりました。詳細は <http://caloo.jp/dpc/disease/871>（病院検索サイト「Caloo（カルー）」）をご覧ください。

*DPC（診断群分類包括評価制度）対象病院とは、主に大規模な医療機関を対象とした医療費の定額支払い制度を採用している医療機関です。全国に1607病院存在し（準備病院含む）、治療実績が公開されています。

順位	病院名	治療実績 件数	DPC件数 （件）
1	千葉大学 千葉市中央区中央病院	346	346
2	大阪府立 茨田病院	322	322
3	山形県立 山形赤十字病院	267	267
4	熊本県立 熊本赤十字病院	239	239
5	千葉県立 柏市中央病院	196	196
6	山形県立 山形赤十字病院	181	181
7	千葉県立 千葉赤十字病院	180	180
8	東京都立 東京都立中央病院	173	173
9	東京都立 東京都立中央病院	171	171
10	山形県立 山形赤十字病院	166	166
11	当院	147	147
12	山形県立 山形赤十字病院	142	142
13	山形県立 山形赤十字病院	137	137
14	山形県立 山形赤十字病院	136	136
15	山形県立 山形赤十字病院	127	127
16	山形県立 山形赤十字病院	122	122
17	山形県立 山形赤十字病院	119	119
18	山形県立 山形赤十字病院	117	117

平成22年度一日平均患者数

入院

※3月分及び年間累計は3月末日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

種別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一般		99.9	91.6	89.0	94.5	105.3	101.4	87.4	96.4	106.7	102.4	113.0	108.6	99.6
重心		121.1	120.5	121.5	122.5	122.8	120.9	118.8	118.3	119.3	120.5	121.7	121.4	120.8
計		220.9	212.2	210.5	217.1	228.1	222.3	206.2	214.7	225.9	222.9	234.7	230.0	222.7

外来

※3月分及び年間累計は3月末日現在（小数点以下第2位は四捨五入）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	257.8	273.8	252.9	252.8	252.4	261.9	255.0	261.3	279.8	269.3	264.2	262.6	261.6

外来医師担当表

平成 23 年 4 月 1 日現在

			月	火	水	木	金
一階診察室	外科	診察室 1	鈴木	牧	角田	鈴木	牧
		診察室 2	浅川	角田		乳腺外来 高橋	肝臓外来 鈴木
	内科	診察室 3	渡邊	10時~ 渡邊 <small>特殊外来午後3時~ 渡邊</small>	渡邊	渡邊	渡邊
		診察室 4	黒澤	黒澤	黒澤	呼吸器内科 菱山	黒澤
		診察室 5	午前	川口	古屋	古屋	中尾
	午後						神経内科 高木
	神経内科						
	循環器内科	診察室 6	薬袋	佐野		薬袋	薬袋
	共用	診察室 7					
	脳神経外科	診察室 8	長沼	長沼	長沼	長沼	大学医師
消化器内科	診察室 9		稲岡	稲岡			
	診察室 10 (肝炎ウイルス外来)	澤田	澤田	澤田		澤田	
整形外科 (スポーツ・膝疾患治療センター)	1	萩野			萩野	萩野	
	2		落合	落合	落合		
	3	千賀				千賀	
	4		齋藤	齋藤	渡邊		
検査室	内視鏡		稲岡	大学医師	大学医師	澤田	浅川
	エコー	午前			腹部 検査科 心臓 薬袋		腹部 検査科
		午後				心臓 薬袋	
小児科	1	内田	内田	加賀	久富	久富	
	専門外来 1 (午後)	神経 畑	神経 中村	神経 神谷	第1・3週 摂食 小野	代謝 内田	
	専門外来 2 (午後)	フォローアップ 久富	フォローアップ 久富				
産婦人科	1	滝澤	雨宮	高木	雨宮	滝澤	
	2	雨宮	高木	第1・3週 雨宮 第2・4・5週 滝澤	滝澤	高木	
	3	妊健 助産師外来			妊健 助産師外来		
眼科		予約のみ 10時迄 地場	地場	地場		地場	
泌尿器科			大学医師 (予約のみ)				
耳鼻咽喉科					矢崎		

- 受付時間 初診/午前8時30分~午前11時00分 再診/午前8時20分~午前11時00分(再診で予約を取られている方は予約時間まで)
- 予防接種(小児科) 毎週木曜日(完全予約制)
- 毎月第4金曜日 糖尿病教室 黒澤医師
- 泌尿器科の初診の受付はありません
- 乳児健診 毎週 火・金曜日(完全予約制)
- 人間ドック 毎週 火・木曜日 脳ドック 毎週 月・火曜日午後
- 金曜日の神経内科の受付時間は午後1時から3時まで

特殊外来ご案内

- ・「乳腺外来」については、毎週木曜日の午前中に行っています。乳房にしこりなどの異常を感じたら、すぐに受診されることをお勧めします。
- ・「肝臓専門外来」については、毎週金曜日の午前中に行っています。近親者に肝炎の方がいらっしゃるなど自分も肝炎にかかっているのでは、とご心配な方、健康診断で肝機能障害を指摘された方などは受診されることをお勧めします。
- ・「物忘れ外来」については、脳神経外科で行っています。ご家族が「忘れることが多い」と気づいたら、受診されることをお勧めします。

編集後記

医療の進歩と共に日々おくすりも進化しています。特に最近注目なのが「OD錠」と呼ばれる水なしで服用ができる口腔内崩壊錠です。

お口の中ですぐ溶けるため、飲み込む力が低下した高齢者の方でも簡単に服用できます。また水にも簡単に溶けるため、医薬品業界では今「OD錠」が急激にその数を増やしています。

「OD錠」以外にもいろいろ工夫されたおくすりが開発されており、今後もおくすりの進化はさらに続きそうです。(薬剤師 T)